



杉亨二の誕生日の謎プラスアルファについて…！

奥積 雅彦（総務省統計研究研修所教官）

1 はじめに

統計図書館ミニトピックス No. 30「統計報告書でみる我が国でのスペイン風邪の被害状況」において、歴史人口学者の速水融^{はやみあきら}先生が超過死亡の概念を用いてスペイン風邪による被害状況を試算したことについて紹介する原稿を書き終えた頃、杉亨二^{すぎこうじ}博士の誕生日が話題となり、史料などを調べてみましたので、これに関連するエピソードを紹介します。

<p>すぎこうじ 杉亨二 (1828~1917) 1</p>	
	<p>日本の近代統計学の先駆者。父泰輔、祖父敬輔は医者。10歳の頃、孤児となり、時計師上野俊之丞の経営する上野舶来店へ奉公するなどした後、緒方洪庵、杉田成卿、勝海舟等の門下で蘭学を学ぶ。老中阿部正弘に仕え、以後、蕃書調所教授手伝、開成所教授職等を歴任。ドイツのバイエルンとオランダの統計書から西洋の統計学の存在と重要性を認識し、維新後は、明治元年（1868）駿河国に移り徳川家教授方となる。明治3年民部省出仕命じられる（7月～9月）。明治4年太政官正院大主記（政表課）、明治7年同院政表課長、明治14年統計院大書記官、明治43年国勢調査準備委員会委員を務めるなど、日本における官庁統計の創設、普及に貢献した。法学博士。</p>
 <p>「杉さん」 2</p>	<p>令和2年（2020年）、国勢調査100年を記念して、長崎県出身である杉博士をモチーフにした「杉さん」が長崎県統計課のキャラクターに就任。</p>

2 杉亨二の誕生日の謎

インターネットで公開されている公式文書を見ると、叙勲関係文書に添付されている履歴書においては、文政11年8月生まれ（日付の記載なし）とされているものと文政11年6月15日生まれとされているものがありました。また、国立国会図書館HP「近代日本人の肖像」では文政11年10月10日（1928年11月16日）とされていました。ここでカッコ書は太陽暦に変換したものと思われます。

総務省統計局HPをみると、最近まで、8月2日（太陽暦9月10日）とされ、文献をみると、6月15日（太陽暦8月2日）、8月（日付明記なし）、（太陰暦）10月10日とするも

1【参考資料】、【写真】：国立国会図書館HP「近代日本人の肖像」、【画像「杉さん」】：長崎県統計課提供、著作権は長崎県統計課に帰属。

2【参考】長崎県統計課のキャラクター「杉さん」のコンセプト（長崎県統計課資料による）

おおきな目	一度に複数のデータを見ることができ統計・分析に長けている
羽織	長崎県の色「あお」
袴上部	長崎県産品であるミルクセーキをイメージ
袴下部	県民鳥の「オシドリ」、県民獣「九州シカ」の色をイメージ

のなどがあり、区々でした。文献等によっては、戸籍で生年月日が10月10日であることを確認したとするものもありました。ただ、法的には、戸籍上の生年月日が正しいと思いますが、戸籍と生年月日が異なる文献等について、その理由を知る術もなく、太陰暦から太陽暦への換算しているものも散見されますが、そもそも原資料が太陰暦なのか太陽暦なのかが確認できない文献等もあり、真相は分からないことが分かりました。（【別記】参照）

3 速水融「歴史人口学で見た日本」における杉亨二に対する評価

杉亨二博士のプロフィールを調べる過程で速水先生の著書「歴史人口学で見た日本」に出会いました。同書において「人口統計の確立者・杉亨二」の見出しがあり、その冒頭は「ところで、私の考えでは杉亨二こそ、日本における人口統計の確立者であった。」で始まり、「杉亨二の偉いところは、明治維新の最中、五稜郭のあたりでは鉄砲の撃ち合いさえやっているときに、彼が学んだ方法を使って、静岡県下のいくつかの町で国勢調査を行ったことである。」「現在、沼津とその隣の原という二つの町の調査記録が残っているが、それを見ると、江戸時代のものとは違って、身分別などという項目は一切なく、そのかわりに職業別であるとか、結婚しているとかしていないとか、われわれにとって決定的に大事な人口統計の要素が盛り込まれた調査になっている。そのような調査を、彼は早くも明治元年、二年という段階に実施した。」とされ、杉博士を高く評価し、敬意を表しています。

4 奇しくも・・・

日本の歴史人口学研究の第一人者である速水先生は、令和元年12月4日にお亡くなりになりました。奇しくも我が国で初めて人口センサスをプロデュースした日本近代統計の祖である杉亨二博士の祥月命日に当たります。

【別記】杉亨二博士の生年月日

	生年月日 (赤：陰暦、青：陽暦)	備考	
【公式文書】(インターネット公開)			
11	国立公文書館デジタルアーカイブ 叙勲裁可書【添付の履歴書】 件名：「正五位勲五等杉亨二叙勲ノ件」	文政十一年戊子八月 (仰裁文書の日付) 明治 35 年 12 月 13 日 ※明治 35 年 (1902 年) 12 月 15 日に 勲三等に叙せられるに際しての叙勲 裁可書	
12	国立公文書館デジタルアーカイブ 上奏文書【添付の履歴書】 件名：「杉亨二外四名叙勲ニ付上奏ノ件」	文政十一年六月十五日 (上奏文書の日付) 大正 4 年 10 月 16 日 ※大正 4 年 (1915 年) 11 月 10 日勲 二等に叙せられるに際し、同年 10 月に文部大臣高田早苗内閣総理 大臣大隈重信あて上奏された文書	
13 ★	国立国会図書館HP 「近代日本人の肖像」	文政 11 年 10 月 10 日 (1828 年 11 月 16 日)	
14 ★	統計資料館「杉 亨二 大隈重信」パンフレット (年表)	文政 11 年 (1828) 肥前国長崎 (現：長崎県長崎市本籠町) に生まれる (8 月 2 日)	【注書き】 ※明治 4 年以前は太陰暦である が、西暦の年号は単純に読み替え たものを参考として表記しまし た。 参考文献：島村史郎「日本統計史群 像」
15 ★	総務省統計局HP (統計資料館) 「杉亨二の来歴」	【現行】文政 11 年 (1828 年) 肥前国長 崎 (現在の長崎県長崎市) で生まれる。	【修正前】文政 11 年 8 月 2 日 (1828 年 9 月 10 日) 肥前国長崎 (現在の長崎 県長崎市) で生まれる。
【文献】			
21	国立国会図書館デジタルコレクション 「東京学士会院会員杉亨二先生略伝」 (「東京学士会院雑誌」第 21 編之 4 所収) 明治 32 年 (1899 年) 4 月	文政十一年六月十五日	
22	「統計學社々長杉亨二先生略傳」(「統計学雑誌」159 号所収) 明治 32 年 (1899 年) 7 月	文政十一年六月十五日	前掲の「東京学士会院雑誌」から掲 載した旨の注書きあり
23	花房直三郎「本會名譽會員法學博士杉翁ノ勲等陸叙ヲ 賀ス」 (「統計集誌」418 号所収) 大正 4 年 (1915 年) 12 月	文政十一年八月	
24	「統計学雑誌」378 号 ①冒頭部分 (横山雅男) ②田中太郎「杉亨二翁略伝及事績」 大正 6 年 (1917 年) 10 月	①本年八月二日 (陰暦六月十五日) は余 が恩師杉先生九十の初度に当たるを以 て… ②文政十一年八月二日	※陰暦に換算すると 7/26 に
25 ★	国立国会図書館デジタルコレクション 「杉亨二自叙伝」 大正 7 年 (1918 年)	(履歴書) 文政十一年戊子八月生	
26 ★	国立国会図書館デジタルコレクション 加地成雄「杉亨二伝」 ① (3 頁) (二一イ)「正しい生年月日」 ② (153 頁) 年譜 昭和 35 年 (1960 年)	①文政十一年十月十日 ②文政一一年一〇月一〇日	加地が総理府統計局八十年史編集 主任のとき戸籍謄本で確認した旨 記述あり
27 ★	スタチスチク復刻版 別冊 細谷新治「スタチスチク解題」 ① (21 頁)「杉先生小伝」 ② (127 頁)「杉先生略年譜」 昭和 55 年 (1980 年)	①文政十一年(一八二八)十月十日 ②文政十一年(一八二八) 十月十日長崎市本籠町に生まれる	(年譜)「明治 5 年以前は陰暦によ る」との注書きあり
28 ★	日本統計協会 完全復刻「杉亨二自叙伝」 平成 17 年 (2005 年)	(履歴書) 文政十一年戊子八月 (年譜) 文政 11 年 10 月 10 日	(年譜) 目次で 27 の文献から転載し た旨の注書きあり
【その他】			
31	国立国会図書館デジタルコレクション 人事興信録 4 版 大正 4 年 (1915 年)	文政十一年十月十日	

注：★印は、杉亨二博士の没後作成された文献等であり、いずれも没年月日が 大正 6 年 12 月 4 日となっています。